

家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究 既存マンションにおける省エネルギーに関するアンケート調査結果

Study on the energy saving behavior and consciousness in dwellings, the results of the questionnaire survey for existed condominiums in Tokyo & Kanagawa Prefecture

○吉田 一居(東急不動産次世代技術センター) 坊垣 和明(東京都市大学)
阿部 寛人(東京都市大学) 三神 彩子(東京ガス)

1. はじめに

- 東京・神奈川の既存マンション8棟で平成26年9~10月に実施したアンケート調査結果の内、昨年は省エネ行動36項目の認知度・実行度を報告
- 今回は、回答者の属性、家電機器の使用状況、省エネ行動の取り組み、HEMS利用状況を報告

3. アンケート調査結果

3.1 回答者の属性と使用機器

2. 対象住棟とアンケート概要

■調査概要

【対象】 表1参照

【項目】 属性、省エネ認知・意向、保有機器、HEMSなど

【エネルギーデータ】

電力、ガス、水の30分値を2014.4~2015.3の期間取得

表1 アンケート、エネルギーデータ対象

記号・所在地	竣工・入居	戸数	発送/回収	回収率	エネルギーデータ
F1 東京都渋谷区	'12/3	27	10/26	38%	8
F2 東京都文京区	'14/3	29	13/25	52	9
F3 東京都中野区	'13/6	24	11/23	48	7
F4 東京都目黒区	'14/3	47	16/36	44	13
F5 東京都目黒区	'14/3	23	13/23	56	8
F6 川崎市高津区	'14/3	63	27/57	47	19
F7 東京都文京区	'14/3	64	27/58	47	18
F8 神奈川県相模原市	'14/2	254	98/199	49	72
合計		531	215/447	48	154

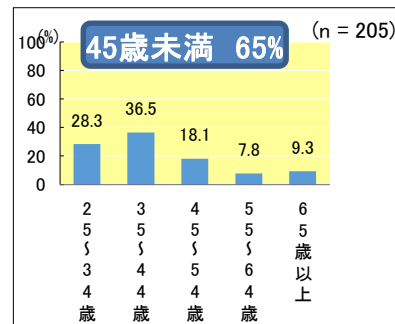


図1 世帯主の年齢

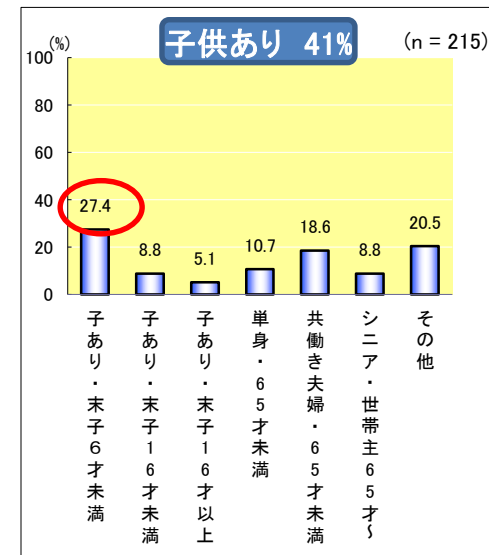


図2 家族タイプ

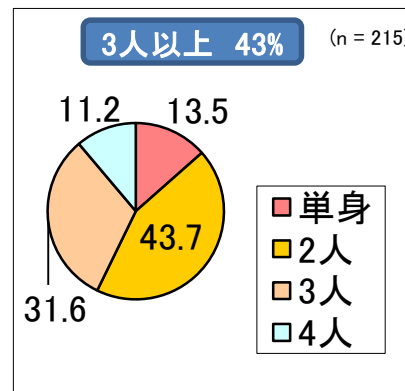
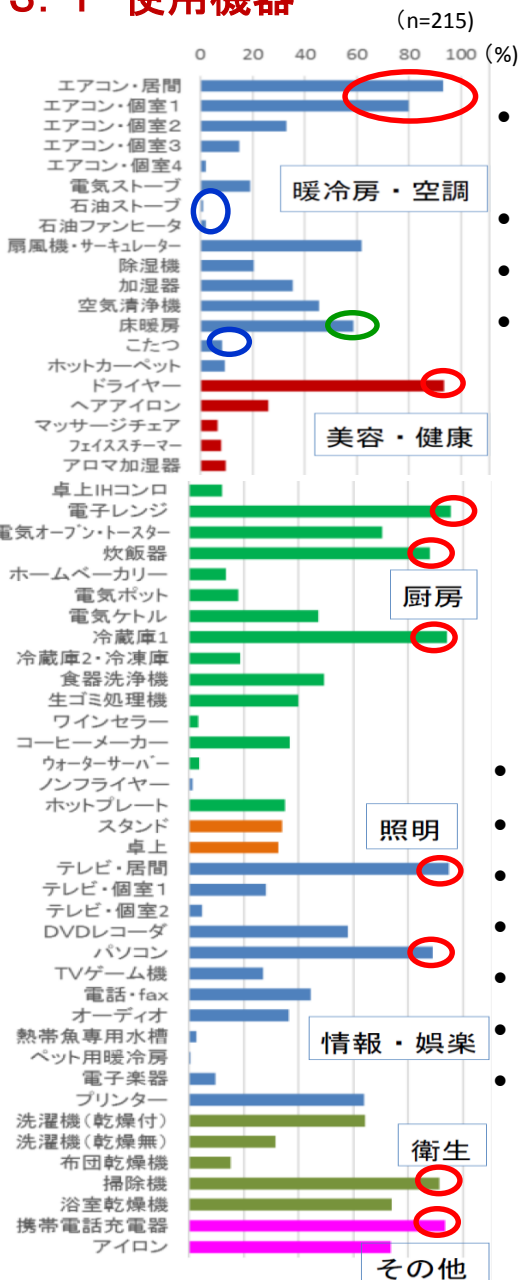


図3 同居人数

◆ 末子6歳未満の子育て世代を中心に、若年層が多い

3.1 使用機器



● 暖冷房は
● エアコンが中心
● 床暖房の利用は
● 6割に留まる
● こたつ、石油ストーブ
● 類は少ない

使用割合が高い家電
(80%以上)

- 冷蔵庫、炊飯器
- 電子レンジ
- テレビ
- パソコン
- 掃除機
- ドライヤー
- 携帯電話充電器

これらが
現代生活の必需品

3.2 省エネルギー関連項目について

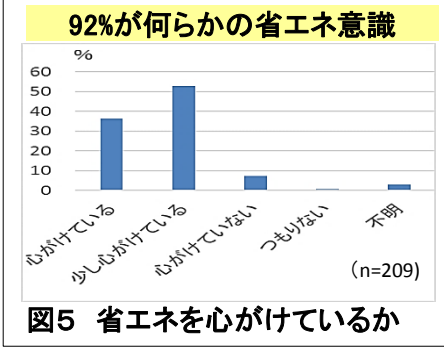


図5 省エネを心がけているか

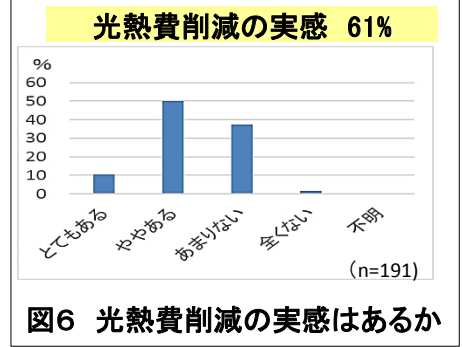


図6 光熱費削減の実感はあるか

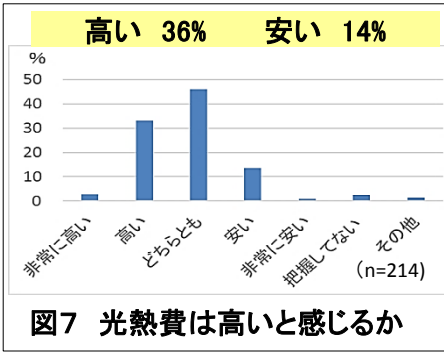


図7 光熱費は高いと感じるか

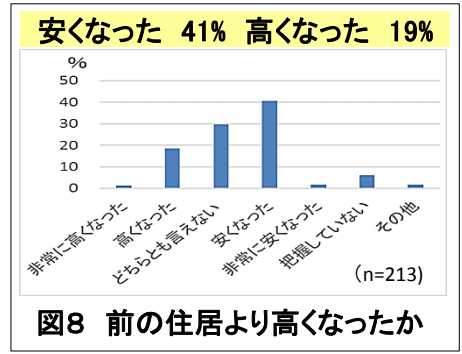


図8 前の住居より高くなったか

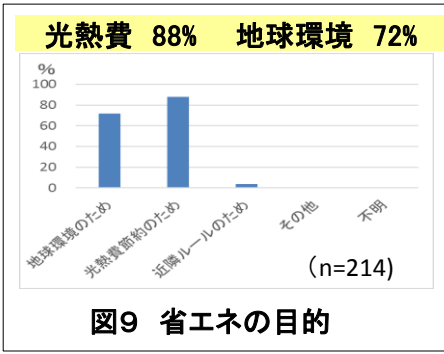


図9 省エネの目的

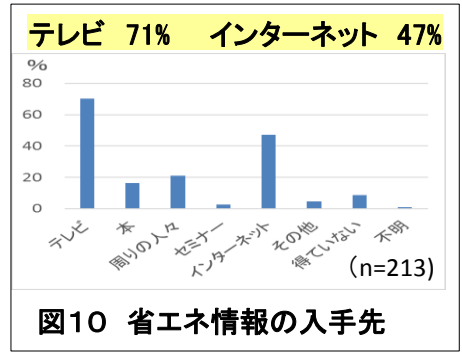
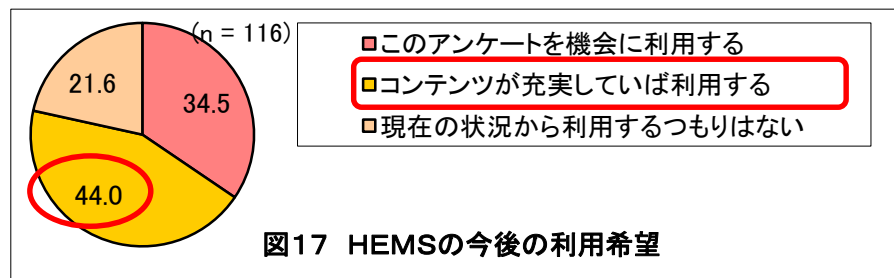
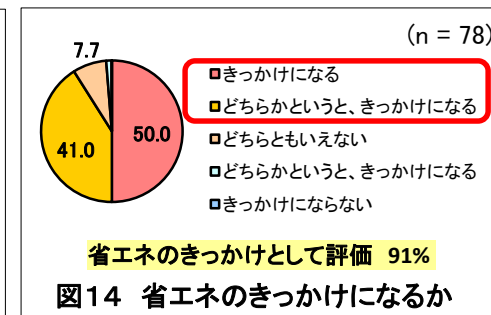
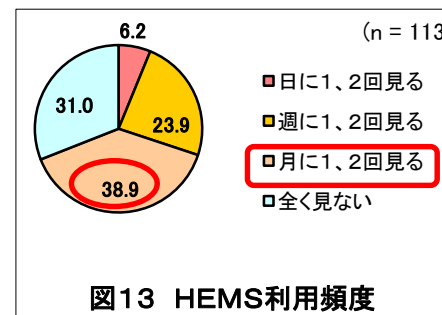
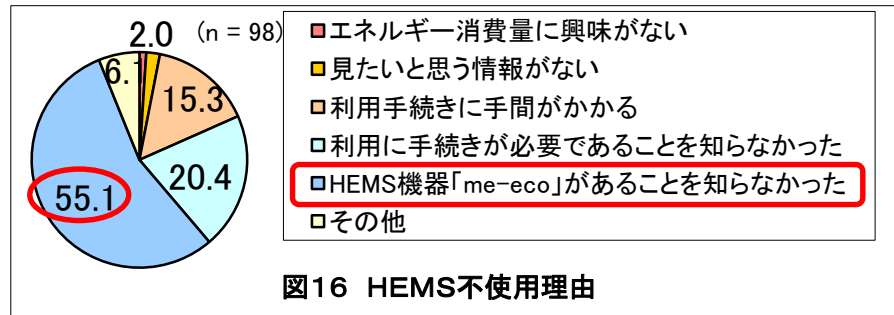
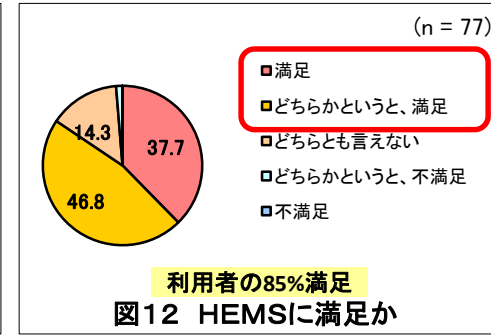
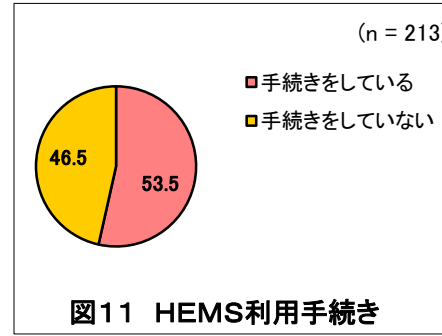
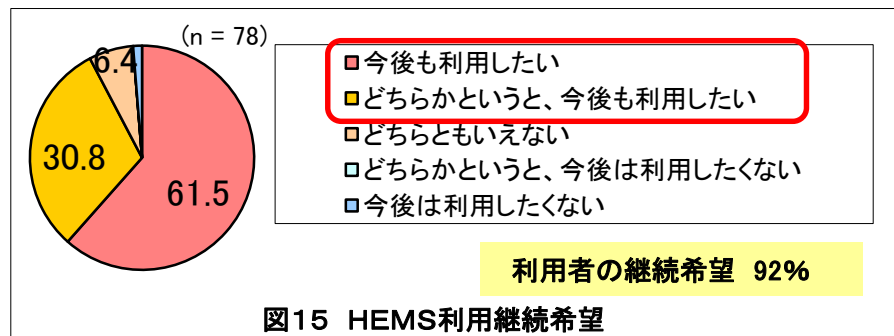


図10 省エネ情報の入手先

◆省エネの目的意識や光熱費削減の
実感は高い

図4 家庭内機器の使用割合

3.3 HEMS関連項目について



4. まとめ

- HEMSを有する既存マンション居住者に対するアンケートを実施
- 情報提供のあり方等にヒントを得た
- 引き続き、その具体化を進めたい

謝辞

アンケートへ回答いただいた皆様、並びに関係各位に深甚の謝意を表する

参考文献

- 1) 坊垣他、「家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究 その1」、東京都市大学、建築学会大会梗概集、2015.9
- 2) 坊垣他、「家庭内における省エネルギー行動と意識に関する研究 その5」、東京都市大学、建築学会大会梗概集、2016.8

◆知らない人を減らす(徹底した周知)

◆丁寧な情報提供(面倒であるという先入観の払拭)

◆情報提供の中身や提供の仕方が問われる